



ピッポ新聞

2010

8

No.250

子どもの本専門店

編集・発行 伊藤俊男

ピッポ

〒424-0886

静岡市清水区草薙1-6-3

TEL & FAX

054-345-5460

URL <http://www.pippo.co.jp>E-mail itoh@pippo.co.jp

(お詫び号)

やっぱり、山はいいな！

本当に久しぶりの山行でした。7月30日の夜から、8月1日にかけて唐松岳に行ってきました。

このピッポ新聞によく山のことを書きましたが、知人を含めピッポ新聞の読者は、ほくが頻繁に山登りをしているとお考えのようで、「最近ピッポ新聞に山のことが余りでてこないね」などとおっしゃってくださいました。こんなことを言われると、あの拙文を楽しんでくださる方がいるのだと、面映ゆい半面、嬉しい気がします。

ところが、山行記どころか20年余りの間、月一回発行してきた、ピッポ新聞そのものを7か月も中断してしまいました。理由は怠惰以外のなものでもありません。ピッポ新聞をお読みいただいていた方に、一方的な中断をおわびいたします。

7か月の間には、今泉吉晴氏のシートン動物記の新訳(童心社刊)など紹介したい本や、民主党政権が鳩山から菅に変わるなど社会状況の変化など時々書きたいこともありました。ところが、いざ書くころと思うと、今はこの仕事の方が優先させなければならぬのだとか、時間ができると、畑に支柱を立てるのがさきで、ピッ

ポ新聞などいつでも書けるなどと、あたかも子ども時代、テストを前にしてあれこれ勉強をしない言い訳を考え出していたように、今回もズルズルときてしまいました。

ほくは長い間溪流釣りをしてきましたが、釣れなかった時の理由を考え出す名人(釣り名人ではありません)で、やれ風が吹いたからだ、水が冷たすぎたとか、言い訳はその時々湯水のごとくわき出てくるのですね。それと同じ言い訳を書いて恐縮です。

季節は冬が過ぎ、春もすぎ、とうとう夏まで来てしまいました。このぶんでは、秋もすぐくることでしょう。これではいかん!とかくピッポ新聞の続行の意志を皆さまにお示しすることといたしました。

まあ、ただかP R紙ですからもつと気楽に、楽しみながら出せばよいのだと勝手におもつことにして、無責任ではありますが、今号をとりあえず「お詫び号」として、山行記を書きました。

唐松岳、山行記にもどります

そうなのです!頻繁に山登りをしているようにおもわれがちですが、ほくが山登りをするのは、一昨年の冬の八ヶ岳以来です。もちろんこの間、何度か計画をしたのです。この冬などは、切符まで購入したにもかかわらず、急な用事のため断念せざるを得ませんでした。

ピッポ新聞のこともそうですが、ほくは目の前に目標がなかったり、切羽つもらないと、だら

けてしまうのです。(自分の欠点を正當にするなんて、やっぱりおかしいよね)

ですから何年もの間、体力を維持する目的で週1〜2回、近くの山を走っていたのもやめてしまいました。

その結果、車で学校や幼稚園に納品すること、倉庫に古書を出し入れに行くこと以外は、パソコンに向かってデータの打ち込みなどをするものの繰り返しで、それで増えたのは体重と、出たのはお腹だけというありさまでした。血圧もコレステロールの数値も悪化して、主治医に運動と食事内容をアドバイスされるしまつです。

まずはジョギングを再開

そこで断固たる決意(「断固たる決意」だって、ちょっとおおげさだね)で、ジョギングを再開したのでした。

再開してみたものの、結果は無惨な状態でした。ジョギングのコースにしているのは山道ですから、アップダウンの繰り返しのあるコースなのです。何年もこの道を走っているのです。ところが、たった3か月走らなかつただけだというのに、持続して走ることができないのです。

足の筋肉が弱くなっているようで、登りの個所になると歩いて登るしかありません。そんな場所が数カ所あり、これまでなら、1時間ぐらいい家で着いたのに、1時間20分もかかってしまいました。思っていた以上に体力の劣化は進行していました。でもね、これで「元の体力」にもどすと

いう目標ができました。根が単純ですから、これでその目標にむかつて、ジョギングを続けることができるというわけです。

だからといって、がむしゃらに突っ走るといふタイプではありません。気ままに週1回ジョギングをするという、たつたそれだけのことです。2か月ぐらい続けると、何とか坂道も歩かずに(しかし、歩くのとあまりかわらない速さ)、コースを走り通すことができるようになりました。家までの時間も1時間10分ほどで戻ることができるようになったのです。

体力回復も後少しだな、と思った矢先のことでした。5月下旬のこと、下りを走っている折り、右膝に「ガクツ」という感じの衝撃を受けてしまいました。から足を踏んだのです。

道路やグラウンドを走るのとはちがい、山道ですから、凹凸は当たりまえです。場所によっては石もゴロゴロしています、気をつけて走っていますが、時々足を下ろすところを間違えて小さな衝撃を受けることもあります。しかし、今回は予期せぬから足を踏んでしまったので、衝撃が大きかつたようで、暫くは痛くて歩くこともできませんでした。

10分もすると歩けるようになりました。まだそのときはコースの半分も来ていなかったのですから、リターンすればよいものを、先へ進んだのです。歩いている内に痛みが薄らいできたので、ジョギングを再開して予定のコースをたどり家に戻りました。この時、少々無理をして走ったことが悪

かつたのか、それ以後、走っているときはそれほどないが、日常的に膝(右足)が痛むようになってしまい、それが現在も続いているのです。絶えず痛いというのではなく、間歇的にいたむのです。特に座ったままなど同じ姿勢を続けると膝が痛くなるのです。(なにやら医者に訴えているようです)

まあ、こんなありさまでしたから、ジョギングも無理をせず続けました。膝痛の所にか、タイムは1時間10分より縮まることはありません。

タイムが縮まれば体力回復の証とばかりはいえないと思いますが、これではいかん、6月の中頃から週2回は走ることにしました。でも、暑さも加わってきたこともあるのか、コースタイムの短縮はなかなかできません。だがしかし、元通りとはいかないまでも、体力は確実についてきたことは自覚できます。

さあ!どの山登ろうかな?

40年以上も山や川ににかけている身には、今の自分の体の状態(体力)では、どの山に登れるか大体わかるのです。(本当かな?)それは科学とはまったく無縁であるが、ある種のイメージが描けるということです。

どういふことかというところ、今の自分の体力状況は、把握できているわけですね。この体力ではこれまで経験した溪や山、例えば、二軒小屋から大井川西

俣を遊行し、さらに小西俣をたどり、高山裏小屋まで（10時間以上）行くことはできないとか、二軒小屋から大井川東俣を遊行して池の沢まで（6時間ぐらい）ならなんとかなるだろうなどと、具体的な登りや下りをイメージして判断できるのです。

そこで、ぼくは今の体力を一日5時間ぐらいの登りなら、なんとか行動できると見積もったのです。ただ、ちよつと心配なのは膝の痛みがでた場合です。でもね。そんなの気にしていたら、山なんか出かけられないよね。

そこで決めたのが、唐松岳に登って祖母谷温泉へ下り、樺平にでて、トロッコ電車に乗るといふコースです。理由は二つです。

八方尾根は、これまで何度か登りや下りのルートとして経験があるから、楽だということが分かっていることです。久しぶりの山歩きの足慣らしに適当だと考えたのです。もう一つの理由は、以前から一度トロッコ電車に乗りたかったのです。でも、一応はひと様には、登山が趣味ですなどと言っている手前、観光客のように宇奈月温泉からトロッコ電車に乗って、樺平を往復するなど登山家（登山家とは大層ですね）のプライドが許しません。曲がりなりにも登山家（？）たるもの、頂上を極めその後、祖母谷温泉に下って温泉に入り、トロッコ電車にのりたいものです。

樺平にたどり着くにはいくつかのルートがあります。検討の結果、この唐松岳からのルートが一番楽そう（楽を求めるなら山なっていくと言われそうだね）なので

これに決めたのです。

いざ、出発

そこで、7月30日新宿から夜行で白馬へ向かうという予定を立てました。1週間前予約を申し込んだところ、夜行の「ムーンライト信州」（全席指定）は満席だという、いまや、新宿から白馬方面へ向かう夜行は、この「ムーンライト信州」が唯一の季節夜行列車なのです。

つまらないことですが、新宿から夜行で山登りにでかけるといふのは、ぼくには一種のノスタルジアです。

学生時代デモ帰り（来る日も来る日もデモにあけつくっていたつけ）に、新宿駅にはキスリングを背負った大勢の若者が並んでいたものです。その頃ぼくは山をやっていますませんがその光景は、憧れだったので。

自分が登山をするようになって、新宿から夜行で何度も出かけるようになったのですが、夜行を待つ若者は群をなすという状態とはほど遠いもので、遠い憧憬を満たしてくれるものではありませんでした。

それどころか、中央線には「特急あずさ」が増えるだけで、夜行そのものが減り、今では盆暮れなどの季節列車として、一本だけが運行されているだけなのです。

だから最近身延線で甲府に出て、中央線に乗り換えることがほとんどです。JRはおじさんのささやかなノスタルジアも奪ってしまったのです。

さて、予約が取れないということは、計画を変更せざるをえません。この日は昼間神田で「明治古典会」という古書の市に出て、夜行で白馬に向かうつもりだったのですが、やむをえず、午後7時発の「特急あずさ」で松本までゆき、そこで一泊して、朝一番の大系線で白馬まで行くことにしました。

大系線の一番列車は6時1分発です。松本駅6番線が大系線で、7番線が上高地方面へ行く松本電鉄の「新島々」ゆきです。ところが、予定の電車が5分前になっても6番線に入線してきません。田舎のJRは随分のんびりだ、と思つたのですが、それにしてもおかしいのはホームにはぼく以外には誰もいないし、誰もこないのです。これはいよいよおかしいぞと感じて、ホームの時刻掲示板を見たらなんと、3番線からの出発だと書いてあるではありませんか。そういえば6番線に来たときには、線路を隔てた向こうにすでに停まっている電車があつたのですが、どうやらそれが乗るべき電車のようなのです。すぐさま階段を駆け上り駆け下りて電車内に飛び込んだらドアが締まりました。何しろ大系線は2〜3時間一本ですから、これに乗り遅れたら、後の行動が大幅に狂ってしまいますからね。何とか間に合つてやれやれです。

実はこの朝すでに、一つ失敗をしていたのです。乗車券は草薙から白馬まで購入していたのですが、切符がどこかに消えてし

まい、松本から白馬までの切符1110円をあらたに買った羽目になってしまいました。

八方尾根は人の列

ゴンドラの駅に着いたのは、9時少し前でしたが、そこは人でごったがえしていました。次々に到着する観光バスからは観光客が吐き出され、ゴンドラに乗るため並ぶので広場は人で溢れました。おかげで、ゴンドラに乗るまで他 分ほど待たされてしまいました。ゴンドラのと、リフトを二つ乗り継いで、いよいよ尾根歩きです。

次から次にリフトを降りた人が尾根を歩き出すので、尾根は数珠繋ぎ状態です。唐松岳までの登山道の途中に八方池という景勝地があるのですが、多くはここを目指しているようです。

数珠繋ぎ状態とはいえ、登山道の両側には、多くの高山の花が今を盛りと咲いています。これを見ながら登るのは嬉しいです。

八方池を過ぎるとさすがに人は半減になりましたが、それでも経験したことのない数の登山者が登っていきます。ぼくなどより高齢のパーティーも結構います。彼らはいが10名を超える人数で、なかにはツアー登山のパーティーも見受けられます。

途中大勢がハイマツの中を見て盛んにシャッターを切っているの、同じように立ち止まって眺めると、そこにライチョウの親子

の姿がありました。ぼくも何度か経験があるのですが、ライチョウを写真に撮ろうと、シャッターを夢中で押すのですが、まともな写っていたことがありません。

丸山ケルンを過ぎると、下山パーティーともすれ違うようになり、道を譲り合うため立ち止まることが多くなりました。ぼくにはこれが一息入れる休息になり、あえて休憩時間をとる必要はありませんでした。

登山道脇の花も、チングルマやシナノキ、ンバイなどが目立つようになってくると、そこはもう、唐松岳頂上小屋の裏手でした。

宿泊の手続きをするさい、明日の予定を書き込む欄に「祖母谷温泉」と入れたら、係りの人が、「このルートは経験ありますか」と言つので「初めてです」といつたら、手続きが終わったら説明しますからということだった。

説明してくれたのは小屋の支配人で、大きな板にイラスト化したルート図見せながら、説明をしてくれた。話してくれた内容はぼくが描いていた範囲内のことがらだったので、意を強くしたのですが、最後に「どのくらの時間がかかりますか?」ときいたら、ぼくをじっとみて「12時間ぐらいだね」というではないか。

それを聞いてぼくはちょっとショックを受けてしまったのです。他人の山行記を読んだり、地形図を眺めたりした結果、ぼく

の心づもりでは6時間と考えてこのルートを選んだのです。途中一度3百メートル位登り返しがあるが、おおむね下りが多いルートです。それなのに「12時間!」

ぼくは何かの間違えかとも思ったのですが、小屋の支配人はこうも言うのです。「途中、餓鬼の避難小屋というのがあります。11時までにつかなければ、ここに泊まるようにしてください。毛布など用意してありますから、そこから祖母谷温泉までは、さらに時間がかかりますからね」。

まあ、ぼくの年齢をみて、多少忠告的な意味を含んでいるのかもしれない。

これを聞いてぼくの決意が、ぐらぐらと揺れ動いてきました。ザックの中にはツェルトや予備食も持っていますが、何しろ膝が途中で痛んだらと思うと、不安が大きくなったのです。近頃の中高年の遭難事故がチラチラしだし、そうなら格好悪いし、今回は断念しよう。

というわけで、今回の山行は何ともしまらなく、物足りない結果だったので。予定より1日早く帰ってきた次第です。9月に再挑戦するつもりです!

しずおか古本市 於ける松坂屋静岡店

8月18日(水) ~ 24日(火)